

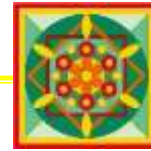


【幼児期の遊びの特徴】

幼児期になると、乳児期までとは違った発達の姿が見えてきます。3歳頃を過ぎると、少しずつ周りの世界が見えはじめ、友だちと長く遊ぶことができ、集団生活に順応できるようになります。順番が分かっていたり、我慢が少しずつ出来るようになっていきます。また、大人が面白く思うことと子どもの面白く思うことが重なってきて、一緒に楽しめるあそびが沢山あります。いくつかご紹介します。



《幼児期の遊びの特徴》



- 1. 立体を作る**…平面的な遊びから立体的な表現が増えてきます。積木の積み方が一直線に積み上げていたのが、互い違いなど複雑な積み方が出来るようになります。
- 2. きれいな模様を作る**…今まで同じ色や形を集める分類する遊びだったのが、赤白赤白のツートン模様から虹色のような秩序だった組み合わせができるようになります。
- 3. 友だちと遊ぶ**…友だちと関わって遊ぶことに喜びを感じ、仲良く遊ぶ時間が長くなります。物の取り合いのけんかから、人間関係のけんかになっていきます。
- 4. 社会や自然に興味広がる**…自分の周りの世界が面白くなってきます。社会には、色々な職業や約束があること、自然にも何らかの法則があることがわかってきます。

(この4つのジャンルのあそびは小学校の算数、国語、理科、社会の学習の基礎になっていきます。)

○立体をつくる《粘土・工作・ブロック・積み木》

- ・積み木は、ずれたり崩れたりを経験しながらバランスを感覚で学ぶあそびです。積み木あそびを通して、子どもは、集中力、手先、考える力、問題解決の力、数学、物理学、論理的思考、想像力などを育てます。
- ・工作あそびでは、はさみ、ナイフ、のこぎり、ハンマー、釘、粘着テープ等を使って作るあそびです。手先や創造力を育てる大切なあそびです。

○きれいな模様をつくる

《パターンブロック・織り機・マンダラ塗り絵・アイロンピース》

- ・子どもは、3歳頃から同じ色や形にこだわりはじめます。色や形のある物を分類する内に、自分で決めた配色パターンを自分の意志で続け出し、模様を作り始めます。
- ・子どもが自分の感じ方を尊重して心のままに自分のきれいな模様を表現することが大切です。

○友だちと遊ぶ《ボードゲーム・鬼ごっこ・ごっこあそび》

- ・3歳までの遊ぶ内容は、「平行あそび」といって、友だちと同じことをして共感し合うあそびが中心です。
- ・3歳以降、友だちと仲良く遊ぶ為に2つの力が必要になってきます。「イメージを共有する力」「ルールを作り守る力」です。
- 「イメージを共有する力」は、ごっこあそびを行うことにより、子ども同士で豊かなイメージを共有することで育っていき、子ども同士のあそびがどんどん広がっていきます。「ルールを作り守る力」は、ボードゲームや鬼ごっこから育まれていきます。
- ・自分の思っているイメージを相手に伝えたり、ルールを伝えたりするには言葉の力がいらいます。人と関わる力は、この2つのあそびを通して育っていきます。

○社会や自然に興味広がる

《お店屋さん・ドールハウス・自然物・虫めがね・図鑑》

- ・自分と友だちとの関係から第三者同士の関係が見えてくるようになり、世界は、自分を中心に回っているのではなく、何かの法則や約束のようなもので動いていることが感じられ、自分の周りの世界に興味に向いていきます。外出先での仕事をしている人の役割や言葉のやりとりを見て学び、ごっこあそびに発展させ、社会を学んでいます。

参考文献：三学出版

『大人も感動する
幼児のおもちゃ』
岩城 敏之著

次回は、
「絵本・わらべうた」
をお届けします。